

大西氏 場長のお話に前文渉員の来を通り下す。

菅子氏 其通りだ。

神原氏 是れでは之(要求書)を置いて行く必要はないでせう。

菅子氏 勿論必要ない。

斯くして要求全部拒絶され午後二時二十五分に至り退出せり。

此間門前より争議団員は一應本部より引揚かり、午後二時十五分至りや三庄
争議團二百四五十名会旗を先頭に土生争議團本部を合し午後四時十五分三百余
名の團員は会旗を押し立て労働歌を唱ひつゝ工場表門より本町通りへ出て三庄團隊を
大山神社前迄見送り、茲に彼等争議團幹部及び京阪等より来援の者は工場に要求
全部を拒絶したるを痛罵し、事既し茲に至りては吾々は最後の手段に訴へて此目的を達
せざる可からずと稱し三庄支部村上源次郎は三庄は人員は於て土生工場より少
敷なるも團結の強固と支部員の勇敢なるを以ては決て土生工場に譲らざるもの
あり、と云ふ之を今後の活動に生せよ、と述べて別れけり。

三十一日

今日より其畏れ多きものも吾等國民の最盛祝に奉じて、次第日嗣、御子、御成婚、奉
祝の日なす、吾等國民

早朝より工場表門には大國旗を文又として以て祝意を表し、奉り、所々皆共に國旗を
立て、吾等空の壽を祝ふ。
平日は此様な事は皆奇也、空前絶後の賑を望み、人々不幸にして一部煽動者等の

爲る、此等争議は、吾等不祥業を惹起し、洒者對峙の終、此大祝日を迎ふ、突に
恐懼の境へするを憂ひ、尚三庄土生両町長の新擧げたる態を見れば、心ある
者、おのれ族を憂へ得んや、

此日午前七時十分三庄工場解雇職工前田繁一外十七名合見を求めたる
慶祝の意味を於てお互互に遠慮するの事を工場より申出たるを以て彼等は退散
せり。本日二十二日締切賃銀を一般職工に渡せり。

六月一日

争議團は於ては午後二時十分より大正座に於て婦人持主主婦の労働争議を閉する